

決算のポイント

実質収支は6億3千万円の黒字

一般会計の実質収支は43年連続の黒字でしたが、実質収支から前年度の実質収支を差し引いた単年度収支は3年連続の赤字でした。単年度収支に財政基金の積立額等を加えた実質単年度収支は2年ぶりの黒字となりました。特別会計は、実質収支で7会計が黒字、4会計は収支差引ゼロとなったほか、企業会計の2事業は黒字となりました。

投資的経費は増加

投資的経費は2年ぶりに増加しました。これはJT跡地活用事業費や私立保育所・認定こども園等整備事業費などが増加したためです。

基金残高は増加

市の貯金である財政基金など3基金の現在高は約114億9千万円で、前年度より約28億9千万円の増加となりました。

経常収支比率は悪化

財政構造の弾力性を表す経常収支比率は94.4%で、前年度より悪化しています。これは、待機児童対策にかかる給付費や住民福祉を支える扶助費の増などによるものです。

統一基準に基づく明石市財務書類を作成

財務書類とは、企業会計に用いられる発生主義の考え方に基づいて作成された財務資料です。本市は、「貸借対照表」「行政コスト計算書および純資産変動計算書」「資金収支計算書」の3表で構成しています。平成28年度から決算と合わせて公表しています。

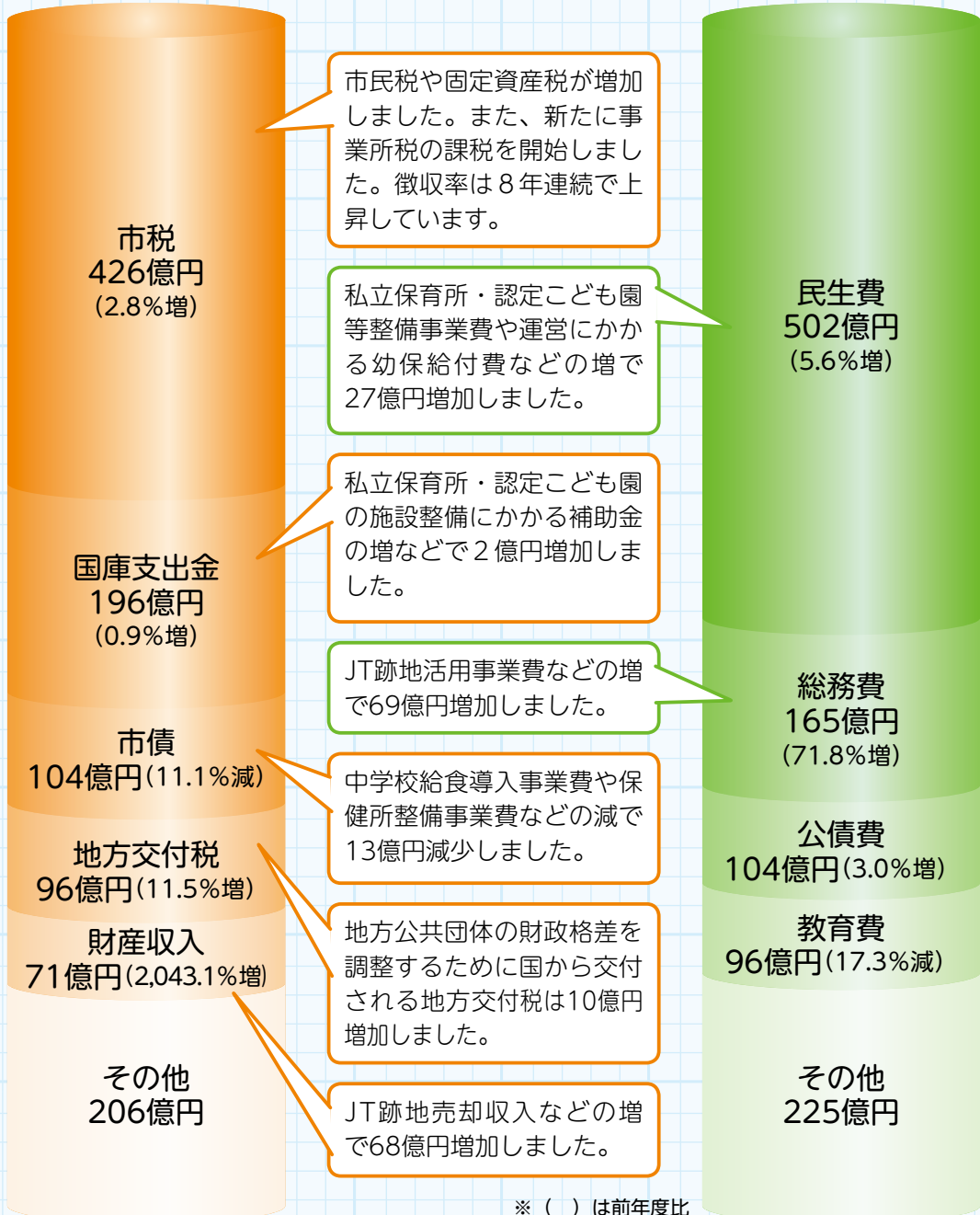
一般会計

歳入(A)	歳出(B)	形式収支(C=A-B)	繰越財源(D)	実質収支(C-D)
1098億6564万円	1092億1123万円	6億5441万円	2287万円	6億3154万円

歳入1099億円 (7.1%増)

昨年度と比べると…

歳出1092億円 (7.2%増)



平成30年度 決算を認定

9月18日に平成30年度決算審査特別委員会を設置し、各会計の決算議案を詳細に審査した後、10月15日の本会議で認定しました。

新たな公共交通の検討を進める

建設企業

常任委員長に聞く



さかぐちみつお 坂口 光男

【議会歴】 在職4期。監査委員、総務常任委員長、中心市街地再整備等特別委員長、議会運営委員長などを歴任。68歳。

重点的に取り組む事項
コミュニティバスについては、さまざまな要望があり、利用者のニーズを踏まえ新たな公共交通の検討を進めていきます。また、(仮称)17号池公園は、公式試合ができる野球場やサッカー場、多目的広場などを整備し、2022年度に供用開始の予定です。JRの安全対策として、ホームドアの設置や踏切をなくすための

エレベーター付き歩道橋の整備のほか、JRや山陽電車の踏切の拡幅工事を行い、歩道を整備します。また、国道2号明石駅前交差点の改良や江井ヶ島松陰新田線の整備を進めていきます。
委員長から一言
市民の皆さまが、安全・快適に過ごしていただけるよう、ご意見をお聞きしながら精力的に取り組んでまいります。

水産資源の豊富な海づくりを一層推進

生活文化

常任委員長に聞く



きたがわたかのり 北川 貴則

【議会歴】 在職6期。監査委員、総務常任副委員長などを歴任。52歳。

重点的に取り組む事項
2021年に天皇、皇后両陛下をお迎えして開催する第41回全国豊かな海づくり大会兵庫県大会のメイン会場が明石市に決定しました。これは環境保全の大切さ、水産資源の保護や漁業振興を目的に全国で開催されているものです。本市は、明石で捕れるタイやタコ、ノリなど全国に誇る海産物に恵まれた海のまちとして、この機

会を捉え、水産資源の豊富な、豊かな海づくりに向けた取り組みを一層推進していかなければならないと考えています。
委員長から一言
市民の皆さまの生活に直結することを多く所管し、責任の重さを感じております。国民健康保険や地域コミュニティ等、市民の皆さまが快適に生活できるよう全力で取り組んでまいります。